

広島大学学術情報リポジトリ



Hiroshima University Institutional Repository

2006.10.30 HARP第1回ミーティング

お話しすること

1. HIRの概要
 - 名称・機能
 - 登録コンテンツ
2. 公開までのプロセス
 - 予算・体制
 - 学内合意形成
 - 広報
 - 初期コンテンツ収集
3. 現状（日々やっていること）
4. これから（日々考えていること）

名称・機能

- 名称：広島大学学術情報リポジトリ

HIR (Hiroshima university Institutional Repository)

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal>

- 機能：

広島大学の教育研究成果物を
集積・保存し、公開・共有する

電子書庫・研究成果のショーウィンドウ

- ソフトウェア： E-repository (CMS社)

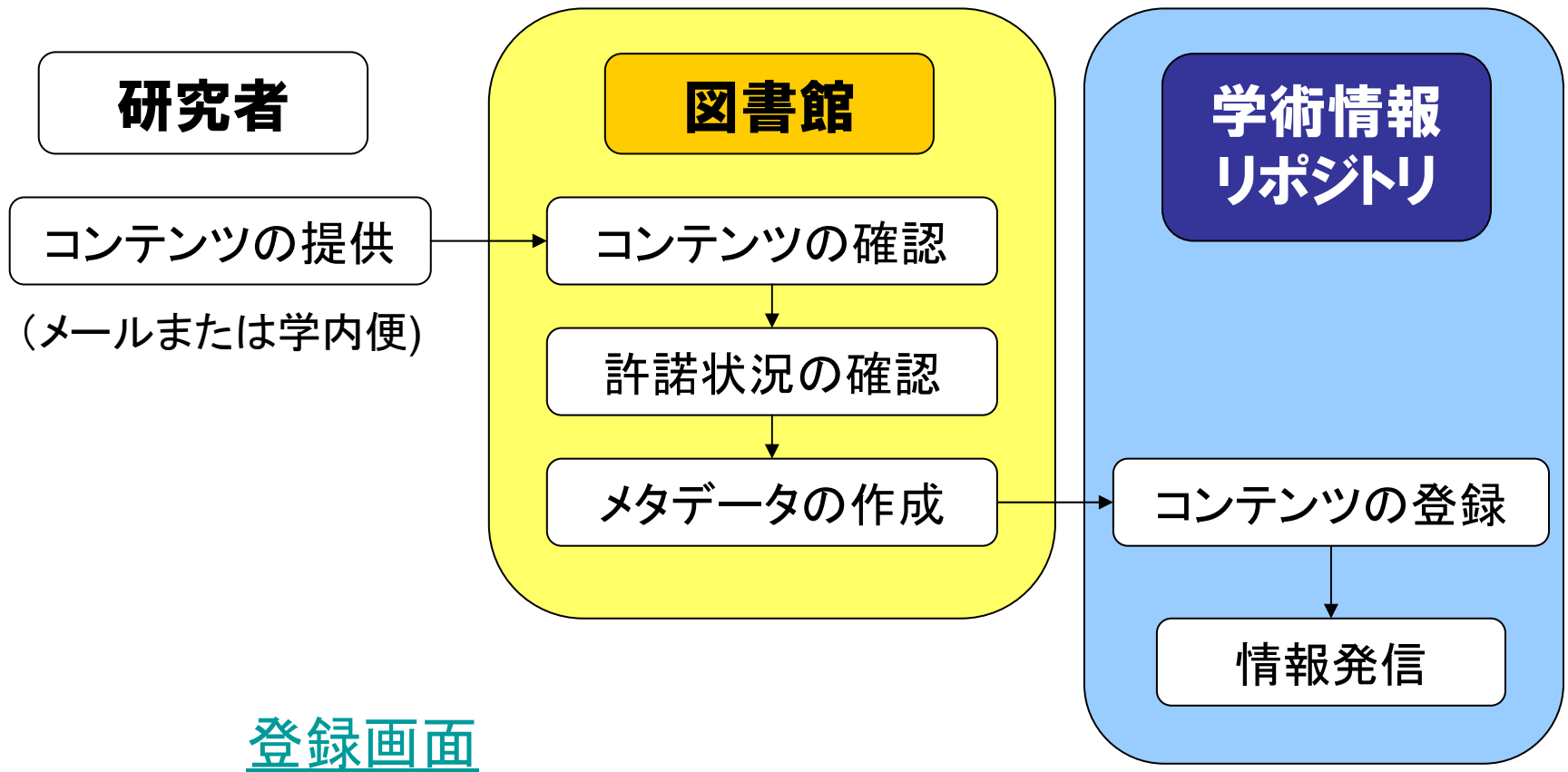
登録コンテンツの現況

学術雑誌論文	516
学内刊行物(紀要等)	1,019
学位論文	32
修士論文/卒業論文	3
プレプリント	10
会議録・講演資料	53
プレゼンテーション資料	12
科研費報告書	5
テクニカルレポート	1
単行書	18
単行書の章	7
電子教材	14
コレクションー教科書	5,596

研究成果
1,690
デジタル資料
5,596



登録の流れ



登録画面

公開までのプロセス

2004.11	広島大学における学術情報のアーカイブ化と発信に関するWGの発足
2005.4	図書館内における検討委員会の設置
2005.5	機関リポジトリ設置の提言(WG報告書)
2005.7	大学全体の方針を協議する「企画会議」での了承
2005.8～ 2006.3	公開準備作業 システム調達・学内合意形成・コンテンツ収集
2006.4	試験公開
2006.10	本公開

予算・体制

予算: 17年度: CSI委託事業費 + 学長裁量経費
18年度: CSI委託事業費

体制:

- 電子図書館構築・整備委員会 (2005.4~)
 - 図書館職員7名
 - 学内合意形成班・システム調達班・コンテンツ収集班

- コンテンツ収集専任チーム(2005.12~2006.3)
 - 中央図書館2名+各分館1名の合計5名
 - 研究者を個別訪問し、コンテンツをかき集める。
 - 目標1,000件。

- 機関リポジトリ専任主担当の設置(2006.4~)
 - 主査1名+グループ員1名

学内合意形成

大学としての認知

2005.7 大学全体の方針を協議する「企画会議」で了承。
→典型的なトップダウン

研究者への説明

1. 学内諸会議で説明 –サブリミナル効果
2. 各研究科長を訪問し、個別に協力依頼
3. 部局別説明会 –教授会へ割り込み
4. 地区別説明会
説明会は約30回・参加人数は約500人
5. 教官個別訪問、個別に電話・メール
→ボトムの仕事(草の根仕事)に移行

広報

➤ 広報資料

- 学術情報リポジトリ準備サイト

広島大学 学術情報リポジトリは
2006年4月本格稼働予定です
▶ [広島大学](#) ▶ [広島大学図書館](#)

リポジトリ関連最新ニュース

■ 広島大学 学術情報リポジトリ準備サイトを開設しました(2005.12.13)

[トップページ](#) | [研究者の方へ](#) | [リポジトリ説明](#) | [コンテンツ送付](#) | [関連資料](#) | [問い合わせ先・部局別等対応窓口](#)

リポジトリってなに?  コンテンツ(論文etc.)を送る! 

学内で生産された論文などの教育研究成果物を
収集・蓄積・保存し、学内外へ無償で公開するシ
対象コンテンツは……>>

広報（よその事例）

学外への文献複写をご利用の方へ

あなたの研究論文を 読みたいくても 読めない人がいます

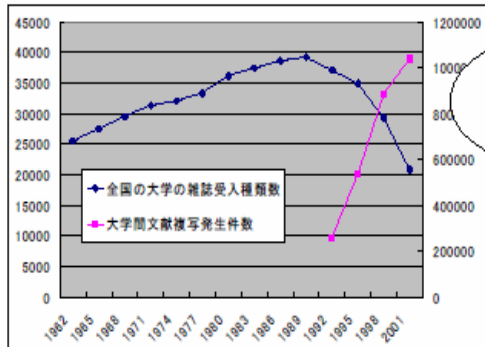
読者を増やそう！

HUSCAP:北海道大学学術成果コレクションの御案内

学術雑誌の価格は高騰を続けています。本学では共通経費化等の措置により、一定量のジャーナル・タイトルの購読を維持できていますが、それでも非購読誌の論文の入手にはこのように学外への文献複写に頼るしかありません。

世界の他の大学・研究機関でも研究に必要な文献の入手は非常に困難な状態になってきています。下図は、日本国内の大学における雑誌受入タイトル数と文献複写の発生数を示したものです。1980年代の終わりを境に、国内で閲覧可能なタイトルは半減しています。

あなたの研究論文を読みたいくても読めない人がいます。著作を北海道大学学術成果コレクション(添付のパンフレットを御覧ください)から公開しませんか？



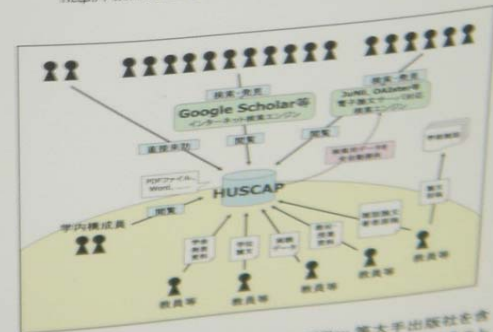
どこの大学でも
文献入手は
たいへん



HUSCAP のねらい

- 図書館蔵書としての電子コレクション構築
本学の研究成果を図書館資料として大切に保管し、後世へ継承します。
- オープンアクセス化による Visibility アップ
無料オンライン公開により、より多くの読者に、皆さまの研究成果を届けることができます。

物理学分野について、無料でオンライン公開された論文は、そうでない論文よりも被引用率が 5.6 倍高いという統計結果が公表されています。
(Stevan Harnad, Comparing the Impact of Open Access (OA) vs. Non-OA Articles in the Same Journals, D-Lib Magazine, v.10, no.6 (June 2004)
<http://www.dlib.org/dlib/june04/harnad/06harnad.html>)



海外では Elsevier, IEEE, Springer, Wiley 等大手出版社を主とする 91% のジャーナルが、掲載論文を大学サイトで公開することを許可しています。(ただし、電子ジャーナル版 PDF の公開は認めず、著者原稿の公開を認めている出版社が多いのが現状です。)



コンテンツ収集方針（当初の希望）

1. コンテンツの種類毎に計画をたて、集めやすいものから始める。
2. 著作権ポリシーは図書館で調査。
 - 調べるツールが確立されていない。
3. 学術雑誌論文（商業誌）にウェイトを。
 - 「シリアルズクライシスに対抗している」という説得力。
4. 紀要はとりあえずNII個別版から流用。
5. 受入は電子化されたものに限定したい。
6. そしてやっぱりセルフアーカイブを…。

コンテンツ収集方針（現実）

1. 集めやすいものから始める。
2. 著作権ポリシーは図書館で調査。
3. もらえるものは全部もらおう。
 - 灰色文献の確保につなげよう。
4. もらったものはなんとかして登録しよう。
 - Greenでなければ出版社に直接問い合わせ。
5. 紙媒体も歓迎しよう。
 - スキャナを買いました。
6. セルフアーカイブはあっさり諦める。
 - そのうち頃合いを見計らって…。

現在のコンテンツ収集のゆるい方針

- 特色あるコンテンツ
 - 平和学に関連した資料を重点的に
- 表に出にくいコンテンツ
 - レファレンス泣かせの灰色文献
- 緑化運動（Green論文）ももちろんやります

広島大学でしか集められないものを！

現状（日々やっていること）

- 学内刊行物の電子化斡旋
 - 紀要等の電子ジャーナル化を斡旋
 - 電子出版システムの開発
- 学位論文の包括的収集
 - 学位論文提出時のファイル提供を各研究科長に依頼
 - 過去の取得者への許諾申請
- 科研費報告書の選別と許諾申請
- データベース・業績一覧からGreenを探し、個別交渉
 - この論文のこのテキストをください。（←効果的）
- いつでもどこでも「営業」

これから（日々考えていること）

1. インターフェイスにこだわる

- 主題ポータル・電子出版
- 研究成果のショーウィンドウ
コンテンツは使われてなんぼのもの。効果的な見せ方を。
- デジタルコンテンツの「器」として
IRの主要コンテンツはあくまで研究成果。
電子資料は検索を目的に登録。
インターフェイスは個別のものを作らないと楽しくない。

2. 大学としてまとまる

- 業績データベースとの連携

さらに日々考えていること

3. 長期に保存する

- 永続的なアクセスの保障
- 恒久的な保存

4. 研究者を知る

- 本当に喜ばれるものを作るためには、研究者の研究行動などから、メリットを考えなければ。

5. 大切なのは育て続けること

- IRは育児のようなもの。